

南小たば風通信 2018

平成30年8月16日(木) 第13号

弘前大学附属小学校公開研究会 参加レポート

7月24日(火)、弘前大学教育学部附属小学校で開催された研究大会に参加してきました。研修報告が遅くなってしまい大変申し訳ありません！

この学校の研究のテーマは「共に学ぶ」～アクティブラーニングの視点に立って～3年次 でした。(アクティブラーニングって言葉を久々に聞いたな～)と思いましたが、要は「主体的・対話的で深い学び」のことだそうです。

1. はじめに

この日の弘前は快晴で、最高気温30℃。北海道の30℃とは比べものにならないほどの蒸し暑さでした。受付は玄関前のテントで行っていて、その人数に圧倒されました。

受付を済ませ、校内に入ってから掲示物など、参考になりそうな物を撮影しようとしたら、「校内での写真・VTR撮影は禁止」とのこと。なので、持参したデジカメは完全にお役ご免となりました。会場の雰囲気伝えるために、1枚だけ撮らせていただきました。(許可は得ました！)



この暑さのためか、給水場を増設したそうで、塩飴も置いてありました。

2. オリエンテーション・研究概要

主題設定の理由を、教育目標や、文部科学省の動向、児童の実態などを通して説明されていました。

平成29年度の全国学力学習状況調査の結果についても説明がありました。国語Aが88.0%(全国が74.9%)、国語Bが74.0%(全国が57.6%)、算数Aが93.0%(全国が78.8%)、算数Bが68.0%(全国が46.2%)と、全国と比べても非常に高いのですが、「B問題に誤答が多いので、B問題にも対応できる資質・能力も育成していく必要がある！」と語られていました。(これだけでできていれば充分すごいですよ・・・)

3. 授業前のようす

国語科は「第1多目的室」という場所で行われましたが、エアコンが効いていて、とても快適でした。子どもたちが暑さにだれることもないので、環境作りという点からエアコンは効果的だと感じました。

この学校の子どもたちは

- ・大きな声ではっきりとあいさつしていました。(南小もすごいと思いますがそれ以上でした。)
- ・ジャージの子を一人も見かけませんでした。(体育のクラスは体操着があるのかな?)
- ・着ている服や、持っている文房具などもステキな物が多かったです。(子どもの貧困問題について考えさせられました。肥満傾向の子も、ほとんど見かけませんでした。)
- ・楽天イーグルスの帽子をかぶっている子が数名、楽天のTシャツを着ている子も一人見かけました。(日ハム関係のグッズは誰も持っていませんでした。)

4. 提案授業① 2年3組 「せつめい名人になろう」

教材「しかけカードの作り方」(光村図書 2年・下) 「おもちゃの作り方」(光村図書 2年・下)
並行読書材「てじなでだましっこ」「おりがみとあきばこでどうぶつえん」他

授業開始前には、夏休みに楽しみなことや今日の授業でがんばりたいこと、前回の授業でどんなことを勉強したかを発表していました。聞いている子どもたちが、話している子の方を向くのはもちろん、うなずいたり、共感したり、聞き方名人ばかりでビックリしました。話す方も話しやすい環境からか、「どんどん話したい」「伝えたい!」という気持ちが全面に伝わってくる発表でした。時間がなくて話せなかった子が「私も話したかった」「先生!僕まだ話していません!」というくらいでした。(うちのクラスでは当たったら「え〜・・・」で当たらなかつたら「やった〜!」なので考えさせられました。)

授業は、「おもちゃの作り方せつめい文を書いて、1年生にプレゼントしよう」という単元の目標に向けた、全6時間の2時間目の授業でした。

前時の授業は、大事なポイントを抜いた説明文を渡し、(大きさや長さ、イラスト、接続語などがまったくない説明文)これでは作ることができない!という課題に直面し、じゃあ、どのような説明文なら作ることができるのかな?で終わったそうです。

授業の最初に、わかりやすい説明文を渡し、子どもが「これなら作れそう!」「すごくわかりやすい!」となつてから、なんでこの説明文がわかりやすいのか考えよう。←(これが本時のめあて)という流れの導入でした。

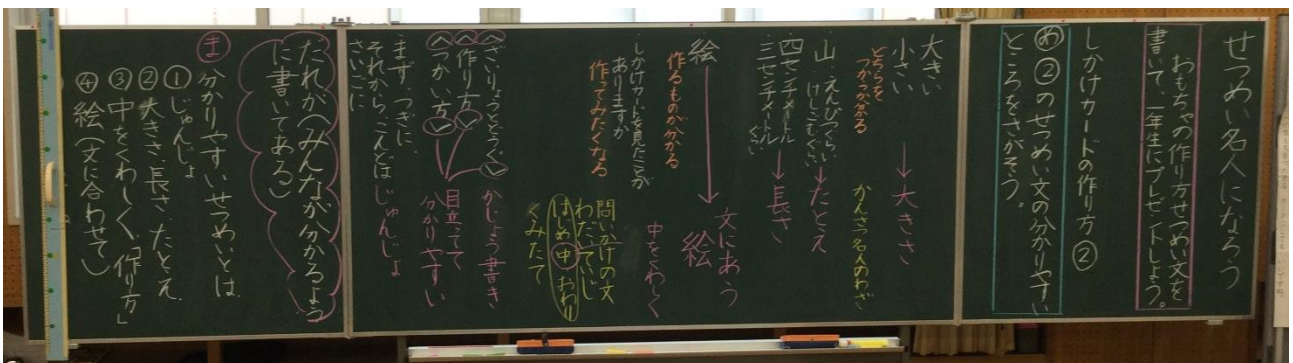
その後、全員で音読(音量も抑揚もとっても上手!)→わかりやすい所に線を引く→理由を書く→立ち歩いて友達の意見を見る→付け加える→一度全体で整理して→立ち歩いて友達と意見を比較したり、説明したりする→全体交流 という流れで授業は進んでいきました。

- 全体交流の仕方は ①まずは発表したい人が立つ。 ②教師が一人指名し意見を言う。
③同じ意見や似ている意見、付け足しがある人はそのまま立っている。
④最初に当てられた子が、次の子を指名する。
⑤立っている人たちで、意見を出し合つて、まとめていく。
⑥まとまったら、①に戻つて、違う意見で同じように進めて行く。

2年生なので、時々迷走したり、話し合いがずれそうな時がありましたが、その時は教師がうまく入って軌道修正していくという感じでした。話し合いを教師が進めていくのではなく、子どもたちが主体的に話し合っている姿が印象的でした。(2年生でもここまで話し合いができるなんてビックリでした!)

最後にふり返りです。時間がおした関係で、一人しか発表できませんでしたが、「今日の授業で説明文には順序、大きさ、長さ、例えば〜〜〜ということがわかりました。なので、1年生にあげる説明文にも〜〜〜をしたいと思いました。」というふり返りを話していました。

※授業後に、「板書等は撮影可能です!」と言われ、急いで撮影しました。



5. 提案授業② 3年1組 「まとまりを捉えて読み、文章の構成を考えよう」

プレ教材「くちばし」(光村図書 1年・上)本文の一部を改編

メイン教材「言葉で遊ぼう」(光村図書 3年・上)

ポスト教材「こまを楽しむ」(光村図書 3年・上)

授業の前には早口言葉を行っていました。谷川俊太郎の「かっぱ」や「ぼった」など。代表者2名が前に出て、早口言葉対決をして、授業前から言葉で遊ぶ雰囲気を作っていました。その後、詩の音読があったのですが、これまた声の大きさ・抑揚がすごくてビックリしました。

自信のない子は全文を見ながら、ちょっと慣れてきた子は、黒板に最初の文字だけ書かれたヒントのような紙を見ながら、自信のある子は暗唱など、それぞれのレベルに合わせて取り組んでいました。

全5時間の中の2時間目の授業でした。前時に1年生の時に学習した「くちばし」の文を読んで、文章構成や段落の内容について学習したそうです。過去に学習したやさしい説明文でも、学年が変わると見方も変わってきて、新しい発見がある!となったの本時でした。

導入で前時をふり返り、今日は「言葉で遊ぼう」という説明文の文章構成について考えよう。という流れでした。

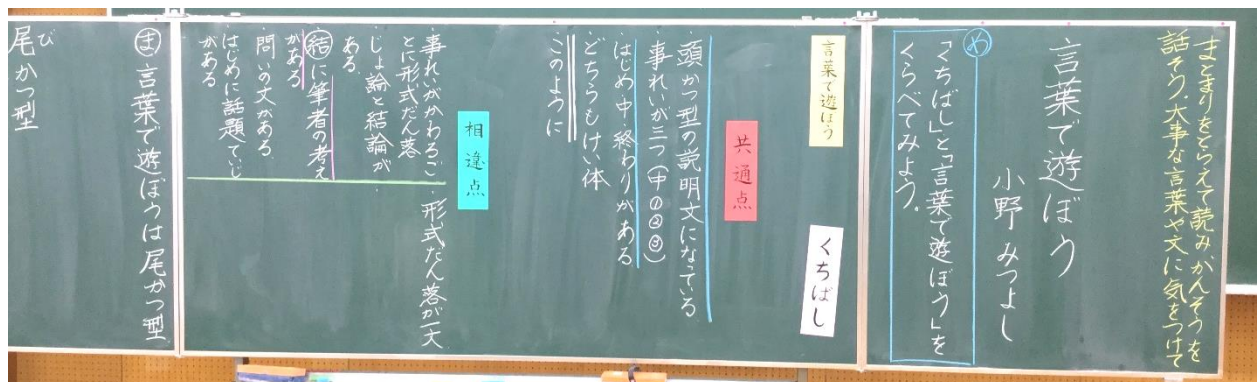
本文が書かれたプリントが渡されると、各自で読み始め、読み終わると1分間の作業に移りました。わかったことやこれまで学習した「はじめ・中・終わり」に分けている子などがいました。

少しすると、子どもたちから「共通点や相違点」といった言葉が出始め、「くちばし」と「言葉で遊ぼう」の共通点と相違点は何か。という疑問から、もう一度本文を読み直していく。

驚いたのは「先生!他の人の意見も見たいので、ライトペア(近くの子)で話し合っていていいですか?」との質問が。教師が意図的にペアを組ませるのではなく、子どもたち自身からペア学習に取り組む姿勢が見られました。その後、ライトペアシェア(近くの子と交流)から、ギャラリーウォーク(自由に交流)へと発展し、最後に全体でまとめる。といった流れでした。

全体交流では、「フリー発表」という方法で行い、話したい人が立って話す。話したいことがない人は座る。話を聞いて、質問などがあつたら立つ。といった感じでした。教師は子どもたちから出た意見を板書しまとめ、話し合いがずれたり、解決していない意見を取り上げたりしていました。2年生同様、子どもたちだけで話し合いが進められている感じでした。もちろん、3年生の方がレベルの高い話し合いとなっていました。話し合いの中で「はじめ・中・終わり」という言葉ではなく、「序論・本論・結論」という単語が出てきたり、「『くちばし』は頭括型の文章ですが・・・」という言葉があつて、心底驚きました。最終的には、「先生、この『言葉で遊ぼう』は、頭括型ではないんですが、何型って言うんですか?」という質問まで3年生から出ました・・・。

最後にみんなの意見をまとめ、ふり返りをして授業が終了しました。ちなみに単元の最後には、説明文座談会といって、説明文についての語り合う1時間をとるそうで、子どもたちは心の底から楽しみにしているそうです。※ちなみに、南小4年生に「説明文座談会やるってなったらどう?」と質問したら、「絶対やだ!」「話すことない!」とのリアクションが・・・。



6. 研究協議（国語）

授業者から

提案授業①・今日初めて本文に触れたが、内容の読み取りはできていた。

- ・普段はもっとグループで話し合ったりする姿が多いが、今日は個人でがんばる子が多かったように思える。
- ・話し合うことが好きだが、自分の思いをただ話している子が多い現状がある。
- ・わかりづらい説明文からわかりやすい説明文になったので、違いが明確になったのではない。ただ、自作教材は作成するのに大変苦労した。

提案授業②・3年生は4学級から集まってまだ4か月なので、最初にプレ教材をやることで、全員を同じ土俵に上げることを意識した。

- ・尾括型について触れたことで、違いが明確になったのではない。
- ・前時は、説明文で盛り上がりすぎて65分になってしまった。
- ・単元の工夫や対話はどうだったのか意見をいただきたい。

という流れで研究協議に入りました。国語会場だけで50人程度いたので、バンバン意見が出るかなと思ったのですが……。目の前ですごい子どもたちの姿を見ていただけに、否定的な意見や、「もっとこうした方が」いった意見がまったく出ず、「すごかったです」「驚きました」といったような感想ばかりでした。

研究協議は1時間半を予定されていましたが、後半は沈黙が多くなり、司会の方が「授業の中身から放れても構わないのでどなたか……」とあったので、せっかくなので質問させていただきました。

「自分のクラスでは発表に対して苦手意識がある子や、特定の子だけで話し合いが進んでしまう現状があるのですが、どのようにすれば今日のように話し合いを楽しめる子になりますか。」

→☆話し合いってよかったな！楽しいな！という経験を積ませる。

☆そのために話し合う内容の工夫、話し方のバリエーションを増やす、メンバーをかえるなどの工夫が必要。

☆話し合いの瞬発力を上げるために、ソーシャルスキルや話せない子への支援を心がけている。

附属小学校の2年生も、ここまで話し合えるようになるまでに、かなり経験を積ませたとのことでした。最終的には、話し合うこと＝特別なことではないという感覚（意識）をもたせるのが大切だそうです。

共同者と助言者からの時間でも、このことについて触れていただきました。

☆話し合いが成立するために、賛否のある内容を話し合わせる必要がある。

☆意見が違うことについて、子どもたちどうして落としどころをつける経験を

☆話し合いは協同・協働できればOK

とのことでした。

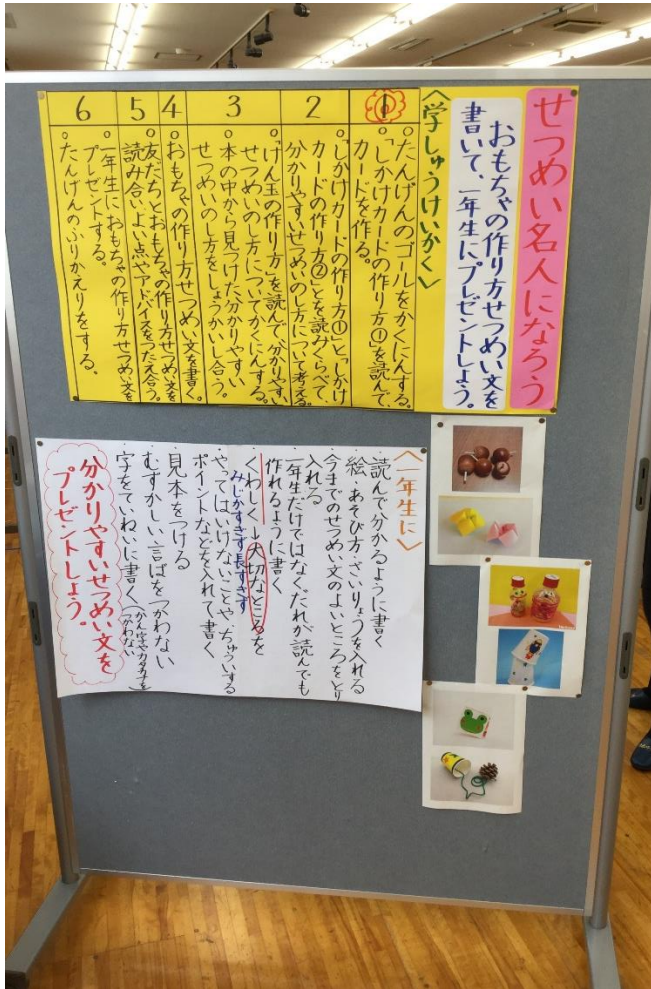
その他には単元構成の工夫について、言語活動についても話されていました。単元でどんな力を身に付けさせるのか。言語活動ありきではなく、学習指導要領の言語活動例をもとにして、学習の計画を立てる。など、すでに本校でも取り組んでいる内容が「大事です！」と強調されていました。

また、ふり返りも○とか△ではなく、どのように学んだか、何がわかったか、はじめは～と思っていたけど、～だとわかったなど、ふり返った時に、次の時間の見通しがもてるふり返りが必要です。と話させていました。なので、ふり返りの時間を確実に設けるために、タイムマネジメントをしっかりと！とのことでした。

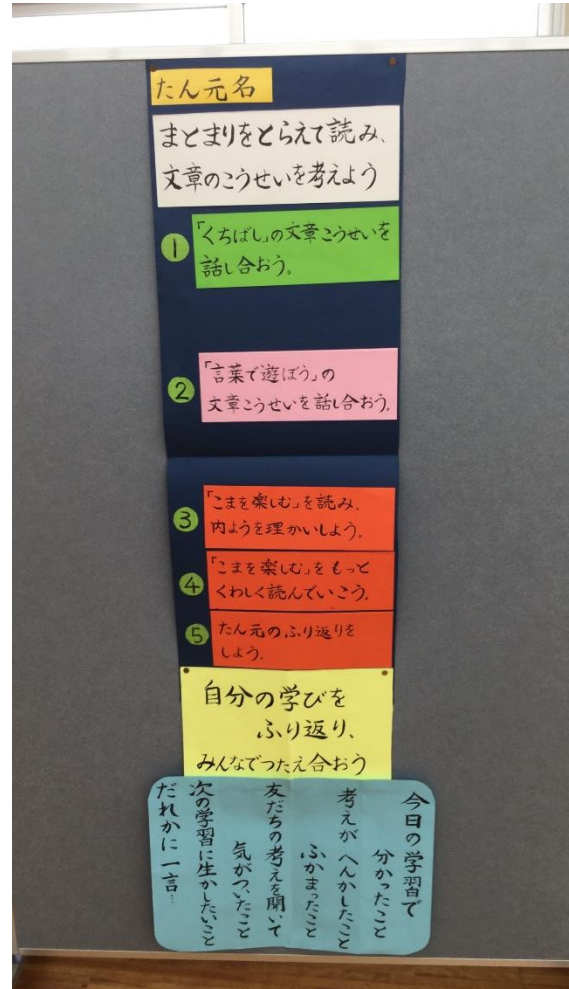
どちらの学年も、単元計画が掲示してあり、見通しをもって活動に取り組んでいました。理想は、単元計画を「知る」だけでなく、子どもたちが自分たちで単元計画を立てられるとよいとのことでした。

(※ただし、時数に関するところは子どもに決めさせず、必ず教師側で決める) そのために可動式の単元計画表があるといいそうです。

『2年生の単元計画』



『3年生の単元計画』



7. 講演①「新学習指導要領の趣旨を踏まえた理科授業作り」

講演②「道徳科における主体的・対話的で深い学び」

どちらも、1時間の講演でした。タイムリーな話題ではありましたが、1時間という限られた時間だったため、基礎・基本の部分や、さらっとした内容だったため、まとめるのが……。詳しくは資料をご覧ください、大事なポイントを見ていただければと思います。

道徳については、昨年度研究で取り組んできたこと（授業の進め方・評価など）が話され、改めて、南小の研究部ってすごいな！と感じた瞬間でした。